発行：一般社団法人コミュニティネットワーク協会那須支所

「人生100年・まちづくりの会」通信

VOL.16　2025年　新春特別号

今年もやります！「生活コーディネーター養成講座」

（一社）コミュニティネットワーク協会那須支所

昨年11月30日、12月1日、第2回「生活コーディネーター養成講座」を、開講いたしました。
講座を通しで参加された方は20名、加えて、希望の講座のみを選んで参加された方も多数おられました。
参加された方からは、「自分の置かれている状況が可視化でき、1人では生きられないことを痛感」など、
様々な感想が寄せられ、実践に役立てたい、学び続けたいとの声も聞かれました。
その声に応えるべく、「生活コーディネーター養成講座」を今年も開催いたします。
さらに、この講座を中心として「市民大学」に育てていきます。
今後ともご意見、学びたいテーマをお知らせください。

2025年 新春鼎談

今年の目標は？　明日はどっちだ？ 今年チャンスがやってきた！

袖井孝子
（そでい・たかこ）

（一社コミュニティネットワーク協会）会長

新春鼎談

近山：新春鼎談、（一社）コミュニティネットワーク協会会長袖井孝子さん、顧問 高橋英與さんと共に、今年の抱負を語り合える貴重な機会をありがとうございます。

袖井：こちらこそ。長い付き合いですが、この３人で鼎談は初めてです。よろしくお願いいたします。

髙橋：今年の展望を大いに語りましょう。〈那須まちづくり広場〉は、「樋口恵子大賞」を受賞されたとのこと、近山さんには、このチャンスを活かしてほしい。

近山：〈那須まちづくり広場〉の「ひろばの家・那須１」の増築部分も完成し、オープンを待つばかりとなりました。

１月30日からいよいよ入居が始まります。全81戸となります。

袖井：「樋口恵子大賞」で株式会社の受賞は初めてです。こういう賞は社会福祉法人や非営利活動法人が対象という考えが根強いのですが、活動の内容がきちんと評価されました。

那須まちづくり㈱が「樋口恵子大賞」受賞!!

近山：ありがとうございます。これを励みに〈那須まちづくり広場〉の拡充と「最期まで私らしく暮らせるまちづくり」のモデルとして全国に周知させていくことをしっかり進めていきます。

髙橋：袖井会長の今年の抱負はいかがですか？

袖井：昨年、近山さんが企画した本『私が選ぶ高齢期のすまい活』（彩流社刊　2,320円）に参加して、私たちの提言、10か条を作成しました（P3参照）。今年は、これを行動規範として、広めていきたいと考えています。

髙橋：わかりやすくて、良いですね。（一社）コミュニティネットワーク協会の行動指針としませんか。これまでも私たちは協会の理念は実践してきましたが、この10か条は、行動指針として具体的な行動につなげられます。

出会いは「シニアハウス大松」

髙橋：袖井会長と初めて会ったのは「シニアハウス大松」を立ち上げた時でしたね。

袖井：私は社会家族学が専門で、住宅には目が向いていなかったのです。しかし樋口恵子さんは早くから住宅の重要性を指摘していて、当時「高齢社会をよくする女性の会」で有料老人ホームの調査もし、私も住宅を意識するようになりました。

そんな時に、名古屋で面白い人がいると旧友から聞き、実家の近くだったので、帰省のついでに訪ねてみたわけです。

高齢者向けのマンションを建てていると聞いたのですが、まず驚いたのは、地域にひらかれている建物ということです。

私たちが調査した有料老人ホームや高齢者住宅にはない発想でした。

そのマンションの１階には上階に住んでいる方の店があったり、２階には保健師さんの「健康相談室」があり、そこの住民はもちろん地域の方の相談にも対応しているというのには感心しました。

最近、医師ではない保健師が地域の「健康相談室」として、あちこちで開設し、注目されていますが、40年前にすでにあったのです。高橋さんの先見の明には感心します。

髙橋：私は大学の建築科を卒業後、設計事務所を立ち上げ、コーポラティブ住宅の建築に関わり、住宅から暮らしを考えるようになりました。袖井会長は人間関係から、暮らし、そしてその器としての住宅を視野に入れるようになったのですね。私はコーポラティブ住宅をいくつか作るうちに、社会のひずみは弱いところに出るということに気づき生活相談を始めました。そこで、困っている人が集まり、課題を解決する方法を話し合う「つくる会」を始めたのです。

あるシングルの女性が、母親に介護が必要になり、介護と仕事の両立で悩みを抱えていました。介護保険ができる前です。課題をもった方が集まって助け合って住む住宅をつくろうと始まったのが「シニアハウス大松」でした。

地域で健康相談をやりたい保健師さんとの出会いがあり昼は「健康相談室」で保健師がお母さんを預かって、娘さんは仕事に行き、夜は自宅で

高橋英與
（たかはし・ひでよ）

（一社コミュニティネットワーク協会）顧問

親子で一緒に過ごすことにしました。
近山：課題を抱えた方の当事者性を中心として、ニーズを形にしていく。それは40年変わらない方法ですね
髙橋：これまでたくさんの商品開発をしてきました。「シニアハウス大松」は袖井会長が学会発表してくださったおかげか、海外からも見学がきました。

「500人のコミュニティ」と「四重構造」
近山：介護保険ですが、昨年の改悪の結果の影響で、保険料を支払っているのに、サービスを受けられない地域が出てきました。
袖井：厚労省は、施設から、在宅へ、地域包括ケアと言っているのに、言っていることと実態がかけ離れている。
髙橋：東京都にも介護難民は存在します。しかし解決策がないので、誰も指摘しない。誰も解決策を持っていない。
近山：行政を待っているだけでなく、まちづくり構想の中に位置づけて、解決策をつくるしかないですね。
髙橋：そうです。「500人のコミュニティ」の実現することが、解決策となります。
　500人というのは、全体の人が見える、感じることができる集落単位です。お互いの暮らしが見えていれば、助け合いができる。そういう規模なのです。「500人のコミュニティ」の中で経済を循環させて、経済的な自立をはかる。この中で7～8割は自給自足をする。
　そこで、四重構造「自主事業＋高齢者事業＋障がい者事業＋子ども事業」の積み上げが解決策となる。一つ一つの事業は黒字にならなくとも、４つの事業を積み上げことで黒字化する。
　縦割りでは、できなかったことを横並びにすることで黒字化するのです。
袖井：コミュニティつくりの中で、10か条の行動指針を活用して、具体化することが必要です。
髙橋：もちろんです。「500人のコミュニティ」では、70%の自給自足を成り立たせる。残りの30%を他の500カ所のコミュニティで充足する。そのために、様々な特徴を持つコミュニティがあると良い。それと研究者との連携が重要、定点観測して分析してほしい。チャンスが来ています！

研究者の役割
袖井：高橋さんは中国の精華大学や北京大学で教えてらしたけれど、反響はいかがですか？
髙橋：中国も少子高齢化が急速に進んでいます。介護保険はないし、大変な状況になりつつあり、４カ所から呼ばれて関わっています。

近山恵子
（ちかやま・けいこ）

（一社コミュニティネットワーク協会）
那須支所長

袖井：政権の方針が急に変わったりして、やりにくいと聞いていますが…。
髙橋：国を意識するのではなく、住んでいる人との関係を重視しています。政治がどうなろうと大丈夫にしないと。手法は同じです、住込みをして、現地リサーチをして、現地の人のニーズを中心に運営は現地の当事者に任せるというやり方です。
近山：住込み、当事者性を中心に、運営は任せるというやり方は「シニアハウス大松」から変わらないですね。
　袖井会長には、研究者として、高橋さんが実践していることをわかりやすく分析し、改めて理解できるように課題解決の方向を示していただいていると思っています。
髙橋：研究者との連携が大事です。社会、組織、人間関係の変化に対応してゆく。コミュニティは常に創造です。
　今年は〈那須まちづくり広場〉の充実はもちろん、那須エリアを拡充していきます。温泉付きの開発も依頼されています。
近山：温泉のあるまちづくりが実現すれば、「那須100年コミュニティ構想」の目標はすべてクリアしたことになります。ぜひ、実現しましょう。
髙橋：「500 人コミュニティ」を３年で15カ所、10年で５００カ所実現して、命を終えたい。袖井会長、近山さん、共に進みましょう。

「行動指針10か条」
『私が選ぶ高齢期のすまい活』（彩流社）より

１．すべての人が最期まで安心して暮らせる「まちづくり」。
２．金持ちより、友持ち、情報持ち。
３．仲間づくりをしよう！
　人の輪がセーフティーネット。
４．いつでもどこでも、ジェンダー平等。
５．自己決定で、当事者性を発揮する。
６．暮らしの中に学びと実践を！
７．寄付文化で社会を支える。
８．福祉の基盤は、住宅と移動。
９．社会保障に住宅保証を！
10．人間に投資せよ！
　人間に投資しない国は滅びます。

〈那須まちづくり広場〉とは？

〈那須まちづくり広場〉は、コミュニティの拠点。アートとカルチャーに溢れています。住まいから、日用品、衣類、雑貨を扱うコーナー、ランチなどを楽しめるカフェ、高齢者デイサービス、放課後等デイサービス、 音楽や各種講座が開かれる大小のホール、宿泊施設などがあります。高齢者 から子ども、住人から観光客まで、交流が生まれるコミュニティでの一例をご紹介します。

多世代・多文化交流・暮らす・働く・学ぶ・遊ぶ

①楽校deマルシェ

自然食品、日用品、お菓子、お酒などが並び、地元の農家さんから新鮮野菜、コトリコーヒーのパンも販売。働く方は那須町はもとより、福島県西郷村からも。10:00〜16:00　第2月曜休

②めぐり氣まま

オーガニックコットン、竹布を使った自然素材の衣料品を提供しています。竹布は肌に優しく、抗菌作用があり、静電気がほとんどおきません。夏季と年末のセールが恒例。11:00〜15:30 月・火定休

③交流ホールA・B「ひろばのひろば」

セミナー、懇談会、音楽会、研修会などに幅広く活用しています。
楽器ギャラリー「LaLaらうむ」のパイプオルガンなどのコンサートも定期的に開催。

④あさひのお宿

素泊まり一泊3,500円からのリーズナブルな価格。食事は予約制「カフェここ」に注文。「LaLaえすぱす」に展示の方や、全国ツアー中のサイクリスト、企業や大学等のゼミ合宿等にも利用されています。

⑤おもちゃの広場 その他

「ひろばの家・那須１」在住のおもちゃコンサルタントが開催。木製のおもちゃ「グッド・トイ」の利用の子育てサロン。他に高齢者向けデイサービス、放課後等デイサービス、シェアオフィスなどもあります。

⑥学生団体「RISE」

地域の活性化を目的に＜那須まちづくり広場＞を拠点に設立。旧朝日小学校で学んだ高校生が代表。「自分がやってみたい企画をみんなで実現する」第１弾は留学体験のセミナーを開催。仲間を募集中。

⑦ストリートピアノ

交流ホールＡには、ストリートピアノがあります。このピアノは、旧朝日小学校の音楽室で弾かれていたものです。ホール利用のない時には、どなたでも自由に弾くことができます。

⑧炊き出し体験

〈那須まちづくり広場〉入口の体育館は那須町住民の避難場所です。防災拠点として、那須防災の会を中心として、毎年消防訓練や防災訓練を行っています。

⑨コミュニティカフェここ

ランチからデザートまで提供中。菓子工房「くるみの森」のケーキも販売。10:00~16:00 月曜休。毎月第2・４月曜17時半〜19時は居酒屋に。手打ちそばや出前寿司の日も。どなたでも気軽に参加できます。

ひろばの家　⑩「那須１」⑪「那須２」⑫「那須３」

⑩自立の方向けサービス付き高齢者向け住宅全81戸
⑪介護の方向けサービス付き高齢者向け住宅全26戸
⑫多世代共生の暮らし（セーフティーネット住宅）全13戸

〈那須まちづくり広場〉の環境共生

有機土木で、水はけのよい健康な庭へ　「里山環境再生」へ

作業中の高田宏臣さん

土溝の脇に苗木を植える

集水のための土溝づくり

『よくわかる土中環境』2,200円（税込）

高田宏臣さんの本『よくわかる土中環境』など著書多数。本とともに土中改善に便利な道具「ぐりぐり」2,000円(税込)は、「めぐり氣まま」にて販売中！

「土中環境」の視点のもとに

2023年１月旧朝日小学校の校庭に開設した「ひろばの家・那須１」では、元校庭に落ちる雨水の排水が悪く、解決できないまま2024年を迎えました。

この解決策を探している時、「土中環境」の改善という考えを提唱、実践している高田宏臣さんを知りました。早速、高田さんに窮状をお知らせし〈那須まちづくり広場〉を視察、調査いただきました。その上で高田さんから、「土中環境」改善による「里山環境再生」の提案をいただきました。

「土中環境」とは、高田さんが生み出した言葉で、土の中の水と空気の健全な流れと、そこで繰り広げられる生き物の生死や循環する環境を意味します。健康な大地が水はけがよく通気性の良い環境を育み、そこで有機物は健全に循環し、人もまた健康で安全に暮らせる環境となります。高田さんは「土中環境」の視点のもとに、自然環境を傷めないことを前提とする「有機土木」を提唱、実践されているのです。

「有機土木」では既成の建築資材を用いず、基本的にその地域で入手できる木材、枝、石、枯れ葉、わらなどを用います。〈那須まちづくり広場〉でも、住人だけでなく近隣の方々に協力いただき、木材、枯れ葉やわらを大量に集めました。

地球と共存する

里山を拓いて建設された朝日小学校が廃校となり「自立と共生」「学びと実践」の小さな拠点として、再生したのが〈那須まちづくり広場〉です。

開設当初から「環境共生」もテーマの一つでしたので、高田さんが提案された「里山環境再生」は、〈那須まちづくり広場〉の目指す方向とも重なっており、人間の健康は健康な環境があってこそとの思いから、有機土木による「土中環境」改善に共に取り組むことになりました。

2024年７月から「土中環境」改良工事を開始、断続的に改善工事を進めていきました。「土中環境」改善のための「有機土木工事」は、2023年開設の「ひろばの家・那須１」の排水改善工事だけでなく、今年１月にオープンした「ひろばの家・那須１」増築部分には建築工事と並行して行っていただきました。

楽しみながら取り組んでいく

また、９月には、楽校セミナーとして「地球と共存する『有機土木』とは～那須まちづくり広場の水はけ改善を事例にして～」を開催、高田さんから、「有機土木」の事例を写真やイラストで体感しつつ学びました。今年も「有機土木」を学ぶ機会を持ちますので、興味のある方はぜひご参加ください。〈那須まちづくり広場〉の１年後、３年後、5年後、風景がどう変わっていくか。「里山環境再生」がどう進んでいくか楽しみながら取り組んでいきます。

●有機土木を体験したい方募集中！

〈那須まちづくり広場〉では、一緒に有機土木に取り組んでくださる方を募集しています。土木作業、落ち葉集めなど自然と共生するためにはやることがたくさんあります。お手伝いいただける方、大歓迎です。

「人生100年・まちづくりの会」への素朴なQ&A

「婦人公論」ネットニュースの反響は？

「おひとりさま70代の働く女性たちが共に暮らせる「町」を作った！リーズナブルなサ高住……」が、2024年９月４日婦人公論ネットニュースで発信されました。

そしてその日から電話が鳴りやまない日々が始まったのです。電話受付、HPへの資料請求の対応、見学案内などなどの日々で、気がついたら11月になっていました。

今回はこれまでになく５０～６０代のおひとりさまからの反響が多く寄せられました。

それも親のためではなく、「自分の老後の不安を解消したい」という切実な熱い気持ちが伝わってきました。

また、昨年の灼熱の暑さから、首都圏が住みにくいところになり、田舎暮らしに夢と希望を持っている方も目立ち、ネットニュースが新たなニーズを掘り起こしたということだと思います。

今年はネットユーザーへの発信も充実させていきます。

婦人公論WEB版は、こちらから⇒

このコーナーの質問大募集!!　読者の方からの素朴なご質問、お悩みにお応えします。回答者は毎回替わります。

今号回答者：
那須まちづくり㈱
入居相談係／
佐々木敏子

運転免許は持っておらず、会員制送迎車とボランティア送迎を利用し、温泉と外食に。隣人同士の助け合いに、日々感謝。

（一社）コミュニティネットワーク協会　高橋英與顧問の

生き抜くための「四重構造」と「５００人コミュニテイ構想」

「500人のコミュニティ」を実現するために ～生き抜くための「四重構造」だ！～

日本はいま、「憲法→基本的人権→生存権」さえ守れない状況に追い込まれています。国民の多くが生活困窮者となり憲法さえ維持できない状況です。

障がい者も、社会から引きこもる人たちも、親の世代に依存せざるを得ず、親が死んだら生活ができないと不安を募らせ、実際に沢山の人たちがそうした現実を迎えています。だとしたら、やはり経済的な自立のきっかけや場をつくるしかありません。

そこで、私が考えたのは、みんなが生き抜くための「四重構造」です。私たち「コミュニティネットワーク協会」が創生した「自主事業+高齢者事業＋障がい者事業＋子ども事業」の事業を積み上げることで、それを可能にするのです。

「４つの事業」を積み重ねることによって、その経営を黒字にすることができます。コミュニティでは500人の人たちが暮らし働くことで、経済を循環させて、経済的な自立を図ることができるのです。

マイナス成長が明日をつくる

成長には、プラスの成長とマイナスの成長があります。これからの日本社会は人口が減って、経済が疲弊して、高齢者が増えます。しかし、「500人のコミュニティ」では、自給自足は可能です。

①エネルギーは風や水や地熱や太陽が活用できる。お米も野菜も作ることができる。
②500戸の住宅は、歩いて行ける範囲でつくることができる。
③働く場所と住む場所が一緒だ。通勤という概念がなくなる。
④子育てと介護が安心で若い世代が集まってくる。
⑤魅力的な仕事を複数生み出す。ケア、ＩＴ、スポーツ、文化、ものづくり、娯楽、食、衣類等だ。

明日への道１ ～美味しい地域食堂～

コミュニティの中での飲食はとても重要です。それを担う「地域食堂」を創るのです。

①食材の減価率は通常は1/3。その減価率を2倍の2/3にする。とても美味しい料理になる。それが入居者や地域の方の利用につながる。
②上記の人件費を生み出すために、「就労継続支援Ｂ型」を組み合わせる。料理の得意な支援員１人と、補佐役の料理人と障がい者の利用者７人とする。利用者で料理の好きな人は、下ごしらえや調理を手伝う。料理を運んだり、後片付けをしてもいい。
③ワンデイシェフ方式を基本にする。もちろん、２日でも３日のシェフでもいい。
④バイキングの料理は大皿方式とする。サラダは地域の朝どりの新鮮野菜だ。
⑤時々、地域の専門の出張シェフも来てもらう。
⑥誕生会や飲み会もできる。
⑦持ち込みも可能とする。みんなで用意して、みんなで食べて、みんなで後片付けをする。そんな地域食堂が理想だ。

明日への道２ ～国・自治体との連携～

国と自治体との連携はとても重要です。

①首相や自治体の組長の公約を一緒に実現する。みんなで一緒にの参加型で公約実現だ。
②国家予算や自治体の予算は生活当事者や社会的弱者の皆さんが提案して、実行していく。
③コミュニティセンター、公民館、体育館、廃校、公園、空き家、空き地の活用は、みんなで一緒にの参加型で総力戦で創っていく。
④予算、補助金、ファンド、投資、地域通貨、ボランティア等々の資金調達は活用できるものは何でも活用する。
⑤起業をサポートする中間支援団体の活用と、地域プロデューサーとしての個人と民間団体が伴走型のリーダーシップをとっていく。
⑥行政から支えられる側から、行政を支える側に転換していく。そのための住まい、仕事づくり、ケア、相談体制を構築していく。

明日への道３ ～仲間とつくる拠点500～

フェイスブックで「500ヶ所のコミュニティの拠点づくり」の呼びかけたところ、新たにお二人が協力に応じてくれました。

この５年間で、15ヶ所のサービス付き高齢者住宅の建設＋小規模多機能＋障がい者事業+子ども事業と「500ヶ所のコミュニティ」の拠点づくりの仲間を募っています。

皆さん、私たちと一緒にやりませんか。

（一社）コミュニティネットワーク協会　渥美京子理事長の日報から

コミュニテイプレイス「まつまる」「あたご」の日々

渥美京子（あつみ・きょうこ）
東京多摩で、母、夫、息子夫婦、孫の４世代と暮らす。

「コミュニティプレイスまつまる」は、八王子市松が谷商店街の空き店舗（スーパー跡）を、「コミュニティプレイスあたご」は、多摩市愛宕にある空き店舗（銀行跡）を、JKK東京より借り受け、多世代共生型の交流拠点として、「まるまる」は、2022年7月に、「あたご」は2023年4月に開設しました。

「まつまる」新体制が落ち着いてきた

某月某日

「まつまる」の運営を障がい就労が担うカタチが本格化して４ケ月あまり。

食堂のメニューを一新したのが8月末、居酒屋を直営で始めたのが9月末、メニューを決めからはじめ、ポップ作り、仕入れ、調理、接客、片付け、利用者のみなさんの仕事の切り出し、スタッフやボランティアの方への指示出し……と初めてのことに奔走する日々だったが、もろもろ落ち着いてきた。

ランチタイムから広がる口コミ

某月某日

　朝から、「あたご」から事務所と回り、「まつまる」到着は10時に。10時30分から、「就労B」※の見学者対応。計画相談Nさんと20代の女性。この女性はデイケアを利用中。自立の一歩として、「就B」利用を検討。利用者ではなく、居場所としての活用検討をお伝えする。

　対応が終わると、利用者のランチタイムとなっていた。食堂には、新たな女性の２人組みが。

　そして「9月に『まつまる食堂』でランチを食べ、おいしかったので友達を誘ってきた」というリピーターの女性２人。

「まつまる」と「あたご」の成り立ち、目指していることを伝える。２人とも介護の現場にいるので、話がすっと入っていく。

「そういう場所なのね、ここは。応援したい。仲間を商店街とランチに誘ってくる」といってくださる。松が谷商店街は「口コミ」で広がる地域、と聞かされていたが、本当にそうだ。出会った人に、丁寧に接することで、次に広がる。

「就労B」※：身体・知的・精神の疾患をもつ方の自立を目指している就労継続支援B型事業所「共生サロンまつまる」。当事者が主体となり、「まつまる」と「あたご」で「好きを仕事に」。まつまるの運営は障がい就労が担うことを目指して取り組んでいる。

高齢者支援と地域の活動の場に

某月某日

午後、「まつまる」にて「地域ケア会議　自立支援」が開かれた。

パーキンソン病と難聴がある80歳の夫と、夫を支える79歳の妻の「自立」を「支援」するために関係者が集まり、課題をあげ、解決策をさぐる会議。

　要支援の80歳がデイサービスなどを利用することなく、地域で自立して暮らすための方策について話す。介護保険を使わず、地域にゆだねる方向が本格化している。

　初めて知ったことは、「就労的活動支援コーディネーター」という「役職」が存在すること。第一層生活支援コーディネーターも務めるＥ医療法人がそれを担っているという。地域貢献、ボランティアなど、高齢者が地域の中で活動するための支援をすることらしい。そのための場所として、「『まつまる』はもってこい」という感触をみなさん、持たれたようだ。

もう一度、ここで働いてみたい

某月某日

「まつまる」は新たな動きが出ている。

かつて利用者だったOさんがアポなし来訪。

「食堂がオープンしたと聞いて見にきました。他の『就労B』に通ってみたが、つまらなかった。もう一度、ここで働いてみたい」といわれる。

「就労B」の利用者のみなさん、「利用日を増やしたい」といわれる方が出てきている。まかないの仕事がやりたかったHさんは週３日を週４日に。20代のKさんも週2日を週3日に。

　一方課題も。利用者のみなさんは、本音を言葉に出せない方が多い。内部に抱え込みがちな方には言葉がけが必要。現場にいる時間は、できるだけそのために使おうと思う。

2024年7月の夕涼み会。約400人が集まる

高齢者や障がい者の雇用を創出する居場所

「まつまる食堂」の担い手は障がい者のみなさん

夕方は子どもたちが集まる。宿題を見ることも

ひろばの家情報

サ高住「ひろばの家・那須１」２期工事　完了！
１月３０日（日）入居開始！

共生型コミュニティ＜那須まちづくり広場＞は、
多世代・多文化の創生と実現のための
「１００年コミュニティ」を創る
活動を進めています。

セミナー情報

〈那須まちづくり広場〉楽校セミナー

1月18日（土）午後2時～3時半「病気を遠ざける『自分軸』とは？～自然に沿ってゆるく生きる～」
講師：本間真二郎（七合診療所所長・医師・微生物学者）
2月28日（金）午後1時半～3時「移動の確保でつくる住みやすい町づくり」
講師：那須町ふるさと定住課職員、鏑木孝昭（NPOワーカーズコレクティブま～る）
３月22日（土）午後1時半～3時「人間の安全保障」（仮題）
講師：清水奈名子　（宇都宮大学　国際学部教授）

参加費：1月200円　2月3月各回500円（資料代含む）
会　場：那須まちづくり広場交流ホールA「ひろばのひろば」
申込先：一社）コミュニティネットワーク協会那須支所　電話0287-74-2312

〈東京〉連続セミナー　「最期までその人らしく生ききるために」

1月24日（金）「もしものときに頼れる人はいますか？」
講師：一柳弘子（一柳ウエルビーイングライフ代表理事）
2月28日（金）「たとえ認知症になっても、最期まで身も心も縛られない暮らしを」
平岩千代子（えびすまほ世話人）
3月28日（金）「自分らしい暮らしをヘルパーはどう発見するのか？」
藤原るか（共に介護をまなびあい・励ましあいネットワーク主宰）
4月25日（金）「利用者から見た 介護保険制度」
宮下今日子（介護ライター）
5月16日（金）「高齢期の『すまい活』～私の生活設計をつくる」
近山恵子（一社コミュニティネットワーク協会）

各　回：14時～15時30分
参加費：1回1,000円（資料代含む）
会　場：一柳ウエルビーイングライフ（渋谷区宇多川町１１－１　柳光ビル別館3階）
申込先・主催：（一財）一柳ウエルビーイングライフ　電話03-5422-3957

〈那須まちづくり広場〉近況

●新年早々、本屋「プント」開業しました。

**場所はコミュニティカフェ「ここ」の北の庭に面し、
天然酵母パンとコーヒー焙煎「コトリコーヒー」、
菓子工房「くるみの森」の並びです。ぜひ、お立ち寄りください。**

一般社団法人
コミュニティネットワーク協会 那須支所
電話：０２８７-７４-２３１２
URL：http://www.conet.or.jp/　〒329-3225　栃木県那須郡那須町豊原丙1340

CN協会について
詳細は→→→